

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-857

(43)公開日 平成8年(1996)1月9日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 8 G 7/05

A

A 4 7 C 31/02

A

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全3頁)

(21)出願番号

特願平6-166251

(22)出願日

平成6年(1994)6月24日

(71)出願人 000210089

池田物産株式会社

神奈川県綾瀬市小園771番地

(72)発明者 山本 万利子

神奈川県綾瀬市小園771番地 池田物産株
式会社内

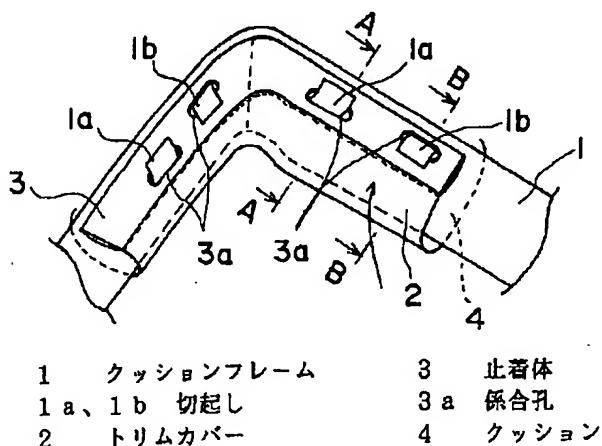
(74)代理人 弁理士 青木 輝夫

(54)【発明の名称】 車両用シートのトリムカバー端末止着装置

(57)【要約】

【目的】 使用中外れることができなく、またシート角部のトリムカバーを分割せずにクッションフレームへ止着できるようにする。

【構成】 クッションフレーム1上に設置したクッション4の表面をトリムカバー2で被覆した車両用シートにおいて、上記クッションフレーム1の周辺部に、切起し方向が交互となるよう複数の切起し1a、1bを間隔をおいて形成すると共に、これら切起し1a、1bに、上記トリムカバー2の端末に固着した帶状係着体3の係合孔3aを嵌挿することにより、クッションフレーム1に対してトリムカバー2を止着するようにしたものである。



1 クッションフレーム

1a, 1b 切起し

2 トリムカバー

3 止着体

3a 係合孔

4 クッション

【特許請求の範囲】

【請求項1】 クッションフレーム上に設置したクッションの表面をトリムカバーで被覆した車両用シートにおいて、上記クッションフレームの周辺部に、切起し方向が交互となるよう複数の切起しを間隔を置いて形成すると共に、これら切起しに、上記トリムカバーの端末に固着した帯状接着体の係合孔を嵌挿することにより、クッションフレームに対してトリムラバーの端末を止着したことを特徴とする車両用シートのトリムカバー端末止着装置。

【請求項2】 帯状止着体の係合孔を、切起しに対して1個置きに開口して、係合孔のない部分を切起しの下側へ挿通してなる請求項1記載のトリムカバー端末止着装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は車両用シートのトリムカバー端末止着装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来自動車などの車両に設けられた車両用シートはクッション材よりなるパッドの表面がトリムカバー（表皮材）により覆われている。またトリムカバーの端末はクッションフレームにより止着されているが、従来からトリムカバーの止着装置が種々提案されている。

【0003】 例えば実開昭56-98068号公報では、フレーム側に設けた係止部に、表皮側に設けた係止片を係合させて表皮をフレームへ止着している。

【0004】 また実開昭60-20898号公報や、実開昭62-79500号公報では、フレームと表皮材にそれぞれ互に係合する突起及び孔を有するプレートを設けて、これらプレートを介してフレームに表皮材を止着している。

【0005】 しかしこれら従来の止着構造では、使用している間に表皮材が伸縮した場合、止着部が外れやすいなどの不具合がある。

【0006】 また別の止着装置として図6及び図7に示すものも採用されている。

【0007】 この止着装置では、クッションフレームa側に切起しbを設けて、これら切起し bに、トリムカバーc側に取付けたJフックdを係合することにより、クッションフレームaに対してトリムカバーcを止着するように構成されている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】 しかし上記のような止着装置では、トリムカバー cに取付けたJフックdをクッションフレームaの切起し bに係合するため、この部分が4層となって厚さ tが厚くなり、体裁が悪いなどの不具合がある。

【0009】 またシートの前面と側面の角部のRに沿つ

50

てトリムカバーcを止着する場合、トリムカバーcの追従性をよくするためトリムカバーcを分割して止着しなければならず、トリムカバーcを縫製するのに手間がかかるなどの不具合があった。

【0010】 この発明はかかる不具合を改善するためになされたもので、トリムカバーを分割せずに止着でき、かつトリムカバーが伸縮しても外れることの少ない車両用シートのトリムカバー端末止着装置を提供することを目的とするものである。

【0011】

【課題を解決するための手段】 この発明は上記目的を達成するために、クッションフレーム上に設置したクッションの表面をトリムカバーで被覆した車両用シートにおいて、上記クッションフレームの周辺部に、切起し方向が交互となるよう複数の切起しを間隔を置いて形成すると共に、これら切起しに、上記トリムカバーの端末に固着した帯状接着体の係合孔を嵌挿することにより、クッションフレームに対してトリムカバーの端末を止着するようにしたものである。

【0012】

【作用】 上記構成によりトリムカバー端末の止着部が4層構造にならないため、厚くなることがないと共に、トリムカバーが使用中伸縮しても、切起し方向の異なる切起しによりトリムカバーが外れることがない。またトリムカバーを分割せずにシート角部のトリムカバー端末をクッションフレームに取付けられるため、トリムカバーの縫製作業も容易となる。

【0013】

【実施例】 以下、この発明の一実施例を図1ないし図3に示す図面を参照して詳述する。

【0014】 図1はトリムカバー端末止着装置の斜視図、図2は図1のA-A線に沿う断面図、図3は図1のB-B線に沿う断面図である。

【0015】 これら図において1は車両用シートを構成するクッションフレームで、表面にクッション4が載置されており、このクッション4の表面はトリムカバー2により被覆されている。また上記クッションフレーム1の裏面側周辺部には、切起し方向が交互になるよう複数の切起し1a、1bが等間隔に形成されている。そして、これら切起し1a、1bにトリムカバー2の端末に接着された止着体3が係合されている。

【0016】 上記止着体3は軟質合成樹脂によりクッションフレーム1の周辺に沿って屈曲自在な帯状に形成されていて、クッションフレーム1に形成された切起し1a、1bと同じ間隔で長孔状の係合孔3aが開口されていると共に、シートの角部のR部分も、トリムカバー2を分割せずに止着体3が固着されている。

【0017】 次に作用を説明すると、クッション4を被覆するトリムカバー2の端末をクッションフレーム1に止着するに当って、トリムカバー2の端末に固着された

3

帶状止着体3の係止孔3aを、切起し方向を交互に逆向きとした切起し1a、1bに順次嵌挿する。

【0018】また、シートの角部も図1に示すように止着体3をクッションフレーム1の切起し1a、1bに嵌挿することにより、トリムカバー2を分割しなくとも、クッション4の角部に追従させてトリムカバー2を止着することができるため、体裁もよい。

【0019】なお上記実施例では、切起し1a、1bの全部に嵌挿する係止孔3aを止着体3に設けたが、図4及び図5に示すように1個置きに設けて、係合孔3aのない部分は、切起し1bの下側を通すようにしてもよい。

【0020】

【発明の効果】この発明は以上詳述したように、クッションフレームの周辺部に切起し方向が交互となるよう複数の切起しを間隔を置いて形成すると共に、これら切起しにトリムカバーの端末に固着した帶状止着体の係合孔を嵌挿したことから、トリムカバーの端末が容易に止着できると共に、止着部が4層構造とならないため、厚くなることもなく体裁もよい。

【0021】また切起しの方向が交互に逆になっていることから、使用中トリムカバーが伸縮しても抜け外れることがないと共に、切起しに合せて係合孔が開口されているため、トリムカバーがずれることもない。

4

【0022】さらにシートの角部は、トリムカバーを分割しなくともR部分にトリムカバーを追従させることができたりため、従来の分割していたものに比べて縫製に要する手間が少なくできるため、コスト低減が図れるようになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例による車両用シートのトリムカバー端末止着装置を示す斜視図である。

【図2】図1のA-A線に沿う断面図である。

【図3】図1のB-B線に沿う断面図である。

【図4】この発明は他の実施例による車両用シートのトリムカバー端末止着装置を示す斜視図である。

【図5】図4のC-C線に沿う断面図である。

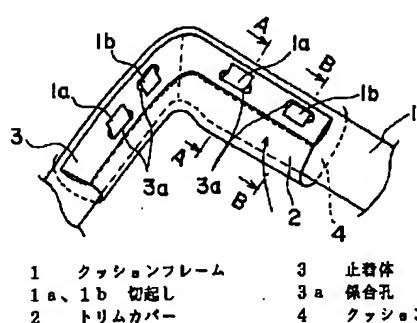
【図6】従来の車両用シートのトリムカバー端末止着装置を示す説明図である。

【図7】図6のD-D線に沿う断面図である。

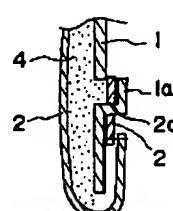
【符号の説明】

- | | |
|-------|-----------|
| 1 | クッションフレーム |
| 1a、1b | 切起し |
| 2 | トリムカバー |
| 3 | 止着体 |
| 3a | 係合孔 |
| 4 | クッション |

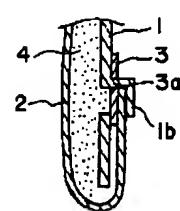
【図1】



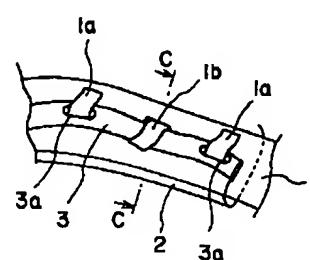
【図2】



【図3】

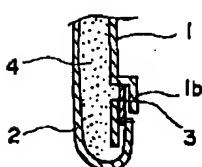


【図4】



【図7】

【図5】



【図6】

